

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書

令和7年 5月 20日

千葉県知事
熊谷 俊人 殿

提出者 〒292-0004

住 所 千葉県木更津市久津間613番地

氏 名 株式会社 ユーベック
代表取締役 飯塚 嘉久
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0438-41-7878



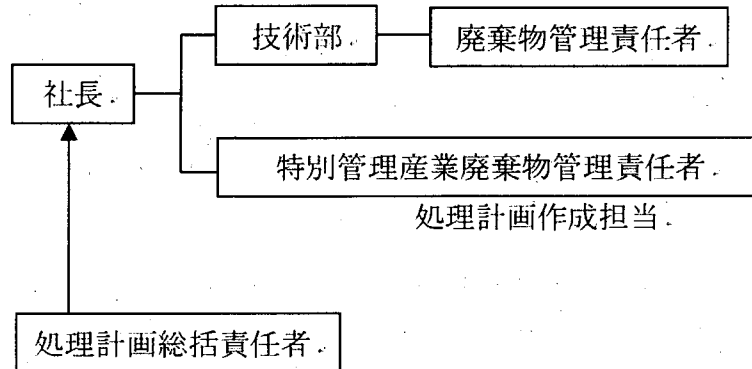
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社 ユーベック
事業場の所在地	千葉県木更津市久津間613番地
計画期間	令和7年4月1日から令和8年3月31日まで
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	Lー学術研究, 専門・技術サービス業
② 事業の規模	前年度の売上高 662百万円
③ 従業員数	44名
④ 特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	・検液作成工程・ ・前処理～分析工程・ ・残試料処分・ 燃えやすい廃油・ 汚泥(基準値を超える有害物質を含むもの)・ 廃酸(基準値を超える有害物質を含むもの)・ 廃アルカリ(基準値を超える有害物質を含むもの)・ 委託処理(焼却または油水分離)・ 委託処理(焼却またはその他中間処理)・ 委託処理(その他中間処理)・ 委託処理(分解)・

(第2面)

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	別紙1のとおり	
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	別紙1のとおり	
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 別紙1のとおり
②計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 別紙1のとおり

(第3面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項 該当なし

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項 該当なし

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項 該当なし

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	別紙1のとおり	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

(第5面)

②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	別紙1のとおり	
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱 回収を行う業者への処理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
電子情報処理組織の使用 に関する事項	【前年度（令和6年度）実績】		
	特 別 管 理 産 業 廃 棄 物 排 出 量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	64.9	t
	(今後実施する予定の取組等) 既に全面的に電子マニフェストへ移行している。		
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（以下「令」という。）第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トン以上の者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。）について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。

特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和 6 年度）実績】					
	特別管理産業 廃棄物の種類	燃えやすい廃油	廃酸（基準値を超える 有害物質を含むもの）	汚泥（基準値を超える 有害物質を含むもの）	廃アルカリ（基準値を超え る有害物質を含むもの）	合計
	排出量	3.02 t	39.78 t	21.9t	0.2 t	64.90t
	（これまでに実施した取組）					
	・ 器具洗浄方法の変更などによる廃酸の排出量削減 ・ 器具の小型化による洗浄廃液の少量化 ・ 建設発生土試料採取用の褐色ガラス瓶を変更することによる土壌の少量化 ・ 試料採取量の見直し・最適化の継続による汚泥の削減 ・ 保留サンプル減少による汚泥の削減 ・ 分析済み試料を顧客へ返却することによる特管物全般の削減 ・ 廃棄方法の社員への教育の再徹底					
② 計画	【目標】（令和 7 年度）					
	特別管理産業 廃棄物の種類	燃えやすい廃油	廃酸（基準値を超える 有害物質を含むもの）	汚泥（基準値を超える 有害物質を含むもの）	廃アルカリ（基準値を超え る有害物質を含むもの）	合計
	排出量	2.87t	37.79t	20.81t	0.19t	61.66t
	（今後実施する予定の取組）					
	・ 器具洗浄方法の変更などによる廃酸の排出量削減 ・ 器具の小型化による洗浄廃液の少量化 ・ 建設発生土試料採取用の褐色ガラス瓶を変更することによる土壌の少量化 ・ 試料採取量の見直し・最適化の継続による汚泥の削減 ・ 保留サンプル減少による汚泥の削減 ・ 機器の更新・導入による特管物排出量の削減（BOD 自動装置） ・ 分析済み試料を顧客へ返却することによる特管物全般の削減 ・ 廃棄方法の社員への教育の再徹底 ・ 試薬管理システムによる試薬廃棄の適正化					

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】					
	特別管理産業廃棄物の種類	燃えやすい 廃油	廃酸（基準値を超える有 害物質を含むもの）	汚泥（基準値を超える 有害物質を含むもの）	廃アルカリ（基準値を超える 有害物質を含むもの）	合計
	全処理委託量	3.02 t	39.78 t	21.9 t	0.2 t	64.90 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	3.02 t	39.78 t	21.9 t	0.2 t	64.90 t
	再生利用業者への処理 委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	
	（これまでに実施した取組） ・全ての各特別管理産業廃棄物の処理において、優良認定処理業者に処理を委託している。					

②計画	【目標】						
	特別管理産業廃棄物の種類		燃えやすい 廃油	廃酸（基準値を超える 有害物質を含むもの）	汚泥（基準値を超える 有害物質を含むもの）	廃アルカリ（基準値を超え る有害物質を含むもの）	合計
	全処理委託量		2.87t	37.79t	20.81t	0.19t	61.66t
	優良認定処理業者への 処理委託量	2.87t	37.79t	20.81t	0.19t	61.66t	
	再生利用業者への処理 委託量	0 t	0 t	0 t	0 t		
	認定熱回収業者への処 理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t		
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t		
	(今後実施する予定の取組)						
	・ 今後も継続して優良認定処理業者に処理を委託していく。						